

■蠣崎波響 松前藩主一族の画家で、家老職をつとめながら、異彩を放つ「夷酋列像」ほか多くの傑作。「松前応挙」とも。

かきざきはきょう

加賀千代句集1764= 松前藩福山場内で、第12代藩主資廣の第七子に生まれ、廣年と名づけられる。

蘭銭初輸入・1765= 1歳：君命により家老蠣崎将監の嫡孫となる。実父が死去し、まだ12の兄道廣が家督を継いで13代藩主となる。

明和事件・・・1767= 3歳：

御蔭参流行・1771= 7歳：城内馬場での馬術練習の様子を描き、大人を驚かす。

田沼意次老中1772= 8歳：

大原騒動・・・1773= 9歳：この年、祖父将監が病気のため致仕後死去し、将監の長子で養父の廣武が継ぐ。江戸藩邸で、京から江戸に下ってきた建部綾足に画を学び、画才を愛されたが、

解体新書・・・1774=10歳：綾足が江戸で死去、同じ流派の宋紫石に託されて師事。

黄表紙始・・・1775=11歳：養父廣武が死去。

源内獄中死・1779=15歳：実兄資清が幕臣池田織部の嗣子となる。

・・・1781=16歳：この年から将監と称し、

天明大飢饉始1782=18歳：

蘭学階梯・・・1783=19歳：\*アイヌの酋長「東武画像」を描き、波響の号を用い始める。画業を切上げて帰藩、来訪した大原左金吾(香譽)が自邸に滞留して影響を受ける。

田沼意次失脚1786=22歳：宋紫石が死去。大坂に上り、木村兼葎堂を訪問。

寛政改革始・・・1787=23歳：

・・・1788=24歳：松前にきた幕府巡検使一行が自邸を宿所とする。この年、第四位の家老にあった。

初の横綱・・・1789=25歳：クナシリ島でアイヌが蜂起、松前藩派遣の征討軍が首謀者多数を処刑、生存アイヌ多数を連れ帰ると、

異学の禁・・・1790=26歳：叔父の松前廣長による序と附録付きの\*傑作「夷酋列像」12図を描く。

混浴禁止・・・1791=27歳：「夷酋列像」を持参して上洛、左金吾から論語の講釈を受け、高山彦九郎と交流し、彦九郎が「夷酋列像」を公卿らへの回覧するも絶縁。佐々木長秀により「夷酋列像」の天覧が実現する。この間、円山応挙に師事。

ラマシ来日・・・1792=28歳：13代藩主道廣が致仕し、嗣子章廣が14代藩主となる。病臥し、

松平定信引退1793=29歳：快気祝いに左金吾から「百亀図」と讃を贈られる。

ワヅガ 正月・1794=30歳：道廣の命で正使として上洛し、大原左金吾を招聘、1年限りで応じる。在京中、菅茶山と頻繁に交流。

写楽・・・1795=31歳：左金吾が松前入り。

プロトシ来航・1796=32歳：「雪月花図」「柴垣群雀図」。皆川淇園が京で開いた新書画展観に花鳥図を出品。

昌平饗始・・・1797=33歳：長男が誕生。

古事記伝・・・1798=34歳：西蝦夷調査に訪れた幕府吟味役一行が自邸を宿所とする。

東蝦夷直轄始1799=35歳：道廣と前年約束の松浦静山「夷酋列像」を借受け、模写する。「夷酋列像」を幕府に献上するか。上京し、

伊能測量始・1800=36歳：白雲寺寄寓中の六如と頻繁に交流。15年ぶりに兼葎堂も訪ねる。

宣長没・・・1801=37歳：「鶴亀図」。六如が死去。廣長が死去。生母が死去。

アメリカ船来航始1803=39歳：江戸に出て、

バノウ来航・1804=40歳：交遊するも病臥。この年、蜂須賀侯の命で渡辺廣輝が「夷酋列像」を模写。「唐美人図」「瓦に石龍子図」。

バノウ報復・1806=42歳：

バノウ船狼藉・1807=43歳：菊池五山「五山堂詩話」に七絶2編が収録。幕府が蝦夷全島を直轄し内地に移封され、道廣は永蟄居。

フェートン号事件・1808=44歳：「富士越龍」。熊坂適山が入門。\*家老となり、松前から陸奥国伊達郡梁川に移って画作、「梅林山水図」。

浮世風呂・・・1809=45歳：

・・・1810=46歳：この年、菅茶山が伊藤蘭軒に消息を尋ねている。

ゴロブシ拿捕・1811=47歳：箱館高龍寺の禪海上人のために「釈迦涅槃図」を描く。「江邨水路渡舟図」「唐美人雉子図」。

高田屋拿捕・1812=48歳：菅茶山から蘭軒を通じて書簡。「梁川八景」。

浮世床・・・1813=49歳：「蓬萊十洲図」「西王母」。

黒住教・・・1814=50歳：「唐美人柳に小禽図」「唐美人図」「牡丹舞蝶図」、

・・・1815=51歳：「青梅小禽図」「名鷹図」「西王母図」「十二支図屏風」「関羽図」、

伊能測量終・1816=52歳：「四季花鳥図巻」、

杉田玄白没・1817=53歳：「花鳥人物図十二幅対」、

水野忠成老中1818=54歳：「案山子小禽図」、

・・・1820=56歳：「丹頂仙客」。蔵王山麓の青根温泉を訪れた後、入府。母と孫娘を失い、松前に帰る。「花鳥人物図屏風」、

伊能図完成・1821=57歳：「鶴亀」「富嶽春夏秋冬」。藩主章廣に従い入府後、梁川勤仕。幕府が蝦夷地返還を決定、

英船浦賀来航1822=58歳：復領事務責任者となり、梁川から松前に引揚げ、福山城・西蝦夷地の引渡しを受ける。

シボム来日・1823=59歳：「猿図」「猛虎図」「桃図」、箱館で「人物図」を描いた後、致仕し、家督を息子に譲る。

シボム鳴滝塾1824=60歳：「鶴亀」「高士歎談図」。藩主の命で復領に際して恩を受けた諸侯に挨拶すべく陸奥を廻る。「野猿人物図」、

異国船打払令1825=61歳：江戸で画作・詩作するも病臥し、松前に戻って、

・・・1826=62歳：「瑞鶴祥雛」を最後に、没した。